






## 12. 頭部原型の製作

12-1		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 油土と心材を用意します。</li> <li>2) 油土の種類にこだわりはありませんが、写真の LEON CLEY 使っています。あまり臭いがきつくないのがいいです。</li> <li>3) 心材は、10mm角の角材を200mmに切ったものを中心に、粘土がずれにくいように45mmに切ったものを写真のように接着してあります。</li> </ol>
12-2		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 粘土を心材の周りに付けていきます。この時、心材に粘土がよく密着するように付けていきます。</li> <li>2) 写真のように粘土を付けていき、縦80mm、横55mm程度の大きさにします。これがだいたい顔の大きさの基本になります。</li> </ol>
12-3		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 顔の造形をしていきます。造形に関しては全くの素人なので、偉そうなことは言えませんが・・・。</li> <li>2) 顔は全体のバランスを見ながら各部を少しずつ作り込んでいったほうがいいようです。</li> <li>3) 髪の毛や耳は、最終的には型取りのため取り除くことになりますが、全体のイメージをつかむためにはちゃんと作り込んだほうがいいようです。</li> </ol>
12-4		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 石膏で型取りをするため、表面をなるべく滑らかになるように仕上げます。</li> <li>2) 仕上げ方法としては、指で軽くこするようになるのが一番いいようですが、細かなところは竹べら等で仕上げます。このとき指や竹べらは、こまめにティッシュ等で拭き、粘土が付いたままこすらないほうがいいと思います。</li> </ol>
12-5		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 型取りをする最終準備として、髪の毛や耳を取り除き滑らかに仕上げます。</li> <li>2) 首の下端部に石膏の流れ止めとなる台座をつけます。これで一応頭部の原型は完成です。</li> </ol>